# 平成３１年度　学校自己評価システムシート（県立志木高等学校）

| 目指す学校像 | 志木高スピリット（立志・言志・続志）の下、高い志を持ち、自分の夢を実現できる学校 |
|---|---|

| 重点目標 | |
|---|---|
| | 1　学習習慣の確立と授業改善により、主体的な学びを推進し、学力を向上させる。<br>2　志木高スピリットを醸成させ、夢の実現に向けたセルフマネジメント力を身につけさせる。<br>3　安心・安全な学校生活を保障し、学校生活に誇りと自信を持たせる。<br>4　地域とともに歩む、魅力ある高校づくりを推進する。 |

| 達成度 | | |
|---|---|---|
| | A | ほぼ達成（８割以上） |
| | B | 概ね達成（６割以上） |
| | C | 変化の兆し（４割以上） |
| | D | 不十分（４割未満） |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者　学校関係者　　名
生徒　　名
事務局（教職員）　　名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 学校自己評価 | | | | | | | | 学校関係者評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度目標 | | | | | 令和元年度 評価（　　月　　日 現在） | | | 実施日　平成　　年　月　日 |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校関係者からの意見・要望・評価等 |
| 1 | ＜現状＞<br>授業公開週間や教員研修を実施するなど、学校全体で授業改善に取組む意識が醸成された。平成３０年度から生徒用手帳「Shikidiary」を活用した学習の自己管理に取組んでいる。<br>＜課題＞<br>生徒の主体的な学びを推進し、学力を向上させるためには、学習習慣の確立と、生徒の実態に即した授業の工夫・改善が引き続き必要である。また、学習の自己管理を確立させるためには、生徒自身の意識を高めることが課題である。 | ・学習を自己管理することにより、学習習慣を確立する。<br><br>・生徒の実態に即した授業改善により、生徒の主体的な学びを引き出す。 | ①生徒用手帳「Shikidiary」を活用し学習時間や課題、提出物等の「学習」を自己管理させる。（通年）<br>②手帳の活用を促すため、「手帳通信」を発行し、有効活用する方法を例示する。（通年）<br>③新聞を活用し「読む」ことや隙間時間を活用することを習慣化させ「読む力」を育成する。（通年）<br><br>④研究開発員を中心に、「知識構成型ジグソー法」による授業改善をおこなう。<br>⑤ＩＣＴを活用した授業改善をおこなう。（6月、11月）<br>⑥授業アンケートを活用し、授業者と評価者（生徒）双方から授業を改善する。（授業アンケートの実施10月）<br>⑦授業公開週間において教員相互で授業を見合い、授業改善について協議する。（6月、11月） | ①各教科、ＨＲ担任による手帳への記入、確認等の指導が徹底できたか。（確認件数の増）<br>②手帳通信が定期的に発行されたか。（年11回）<br>③新聞が確実に教室に届いたか。教科等での活用が増えたか。（前年比：取り忘れ数減、活用報告数増）<br><br>④教科会で知識構成型ジグソー法による授業について研究協議を実施できたか。（学期毎年３回）<br>⑤ＩＣＴ活用研修が実施できたか。（年２回以上）<br>⑥授業アンケートで生徒が興味を持つように教材や話題、授業形態などが工夫されているとの回答が増加したか。（前年比）<br>⑦授業改善をテーマとした研究協議が実施されたか。（年２回） | | | | |
| 2 | ＜現状＞<br>進路意識を高めるため、系統的な進路指導や手帳を活用したセルフマネジメント力の育成に取組んでいるが、夢の実現に向けた目的意識を持って学校生活を送れていない生徒もいる。<br>＜課題＞<br>生徒の進路実現には、保護者に向けた進路情報の発信の機会を増やし、更なる協働体制を築くことが課題である。また、進路意識を高めセルフマネジメント力を育成するためには生徒用手帳の更なる活用が必要である。 | ・進路意識を高め、夢の実現に向けたセルフマネジメント力を育成する。<br><br>・保護者の進路意識を高め、家庭と連携した進路指導をおこなう。 | ①志木高スピリット（立志・言志・続志）を掲示し、意識させることにより日々の学習に目的意識を持たせる。<br>②模試や補講により、入試レベルを把握させ、早期から計画的な準備・対策をさせる。<br>③進路自習室の活用や家庭学習の定着により進路実現に必要な学力を向上させる。<br><br>④保護者向けに進路情報を提供し、保護者の進路意識を高める。<br>⑤生徒用手帳「Shikidiary」を三者面談に活用し、目標を明確化し、「保護者・生徒・学校」の協働により進路実現をサポートする。 | ①志木高スピリットを自覚している生徒が増加したか。（生徒アンケート前期、後期比）<br>②模試の参加人数が増加したか（前年比）、補講開講数および参加者が増加したか（前年比）<br>③年度当初に比べ家庭学習時間が増加したか。（生徒アンケート前期、後期比）<br><br>④保護者の学校行事等への参加が増加したか（前年比）保護者進路説明会を実施できたか（年２回以上）<br>進路情報の発信（ＨＰ、スマート連絡帳年５回以上進路通信年２回）<br>⑤全クラスにおいて、三者面談で手帳を活用し、目標が明確化できたか。 | | | | |
| 3 | ＜現状＞<br>注意喚起や見守り指導により、落ち着いた学校生活は確保できているが、ＳＮＳによるトラブルや交通事故等の未然防止には至っていない。<br><br>＜課題＞<br>学校内外での危機管理能力を育成し、トラブルを未然に防ぐことが課題である。また、学校生活に誇りを持たせるためには、生徒に自己有用感を持たせるとともに、学校行事の充実や部活動定着率の向上が必要である。 | ・事故防止と良好な人間関係づくりを支援し、安心・安全な学校づくりを進める。<br><br>・生徒の自主的な取り組みを支援し、学校生活に自信を持たせる。 | ①新入生を対象とした交通安全教育を実施し、交通事故を防止する。（４月）<br>②ＰＴＡ、地域と連携した校外交通安全指導を実施し交通マナーを向上させる。<br>③携帯・スマホマナー教室の実施やポスターの掲示等によりＳＮＳによるトラブルを防止を啓発する。<br>④スクールカウンセラーを活用し、教育相談を充実させ全職員の共通理解の下、見守り指導をおこなう。<br>⑤自他を尊重する心を育む人権感覚育成プログラムやオリパラ教育を実施する。<br><br>⑥地域交流活動の運営に、生徒会を中心に参画させ、生徒の自己有用感を高める。<br>⑦学校行事や部活動で成功体験を積ませ、学校への帰属意識を高める。<br>⑧校長表彰により、他の表彰に該当しない日頃の頑張りを褒める。 | ①新入生対象交通安全教室が事故防止につながったか。（５、６月の事故件数０件）<br>②校外交通安全指導が実施できたか。（年２回）<br>年間を通して生徒の重大交通事故０件が達成できたか<br>③携帯・スマホマナー教室を実施できたか。（年２回以上）サイバーパトロールからの報告件数が減少したか（前年比）<br>④スクールカウンセラーによるカウンセリングと特別支援委員会における情報共有が定期的におこなわれたか。（毎月１回）<br>⑤人権感覚育成プログラム、オリパラ教育が実施されたか。（年間２回以上）<br><br>⑥地域交流活動や地域貢献活動に参加する生徒数がのべ８４０人以上<br>⑦部活動定着率の向上（前年比）生徒アンケートで「学校行事に意欲的である」の回答数が増加したか。（生徒アンケート前期、後期比）<br>⑧校長表彰に全学年から推薦があったか。 | | | | |
| 4 | ＜現状＞<br>ホームページをリニューアルし、情報発信を積極的におこなっている。地域に根差した学校として、地域貢献活動を積極的におこなっている。<br>＜課題＞<br>地域とともに歩む学校となるためには、本校の教育力を地域に発揮し、開かれた教育課程を実現する必要がある。平成３０年度に立ち上げた「志木高将来構想会議」を進め、平成３１年度中にビジョンを「見える化」することが課題である。 | ・志木高校を中心とした地域交流の輪を広げ本校の教育力を地域に発揮する。<br><br>・魅力ある志木高校のビジョンを「見える化」する。 | ①本校を会場とした地域交流活動「志木高倶楽部プロジェクト」を実施する。<br>②ＨＰ更新を全職員がおこない、学校全体で本校の教育活動や魅力をが発信する。<br><br>③全職員が参画する「志木高将来構想会議」において、中長期的なビジョンを共有し、「志木高未来予想図」にまとめる。<br>④平成３４年度入学生の教育課程編成においてカリキュラム・マネジメントを確立させる。<br>⑤教育課程委員会を中心に生徒の課題に即した「総合的な探究の時間」の内容を検討する。 | ①「志木校倶楽部プロジェクト」が毎月１回以上実施できたか。参加者の意欲に変化がみられたか。（参加者アンケートの参加前、参加後比較）<br>②「こころざし日誌」のページを全職員で更新できたか。（更新数増、アクセス数増）<br><br>③「志木高将来構想会議」が実施されたか。（年3回以上）、「志木高未来予想図」が完成したか。<br>④ワーキングチームによる検討内容を共有できたか。（検討会年３回以上）平成３４年度入学生の教育課程編成に向けた教育課程委員会が定期的に実施されたか。<br>⑤ワーキングチームを中心に、総合的な探究の時間の３年間の学習プログラムが作成されたか。 | | | | |